

## 中国の工業生産に持ち直しの兆し

### ～川上の素材市場が底打ち～

- (1) 4月の中国工業生産の伸び率は前年同月比9.3%と3月の同11.9%から大幅に低下(図表1)。このため、中国経済が失速するとの見方が台頭。以下2点から過度な懸念は必要はないと判断。
- (2) 第1に、工業生産の実勢は公表統計ほど悪化していない可能性。2012年のゴールデンウィークは4/29～5/1と、2011年の4/30～5/2から前倒し。この結果、今年4月の営業日数は昨年よりも1日短縮。カレンダー要因により生産量が押し下げられた公算大。
- (3) 第2に、素材市場が持ち直しつつあり、今後の工業生産の底入れを示唆。
  - ① 素材生産は2012年入り後に再拡大。鉄鋼業は在庫率が低下するなか、生産水準が再び拡大(図表2)。合成樹脂、セメント、銅材の生産量も過去最高水準を更新(図表3)。
  - ② 素材価格も底入れ。生産活動に幅広く使用される銅の卸売価格は、2011年11月以降緩やかな上昇傾向(図表4)。線材、ポリプロピレン、亜鉛めっき鋼板なども2月ごろに底打ち。この背景として、a) 政府が消費拡大と重点分野への投資拡大を財政・金融の両面から支援し始めたこと、b) 公共投資が再拡大したこと、c) 地方政府が不動産市場抑制策を緩和し出したこと、を受けて幅広い産業で素材調達が増大したことを指摘可能。
- (4) 今後、川上の素材から川下の最終需要財に生産拡大の動きが広がると予想されるため、工業生産の伸び率の低下に歯止めがかかり、緩やかな持ち直しに転じる見通し。

